

## 第 88 回歴史探訪の会「兵庫津ミュージアム」と「牧野富太郎ゆかりの地」を巡る

日 時： 令和 5 年 7 月 19 日(水曜)

場 所： 兵庫県・兵庫区

世話人： 内海春樹

今回は 26 名の参加者と共に久しぶりに兵庫県を訪れました。

兵庫の“津”は平清盛の日宋貿易や足利義満の対明貿易など瀬戸内海の要港として栄えました。幕末には対外国の港が開かれ兵庫県としての県庁が誕生し初代知事に伊藤博文が任じられました。今回は復元された県庁舎と兵庫の成り立ちを学びました。

### 1. 兵庫津ミュージアム

博物館施設である「ひょうごはじまり館」と「初代兵庫県庁舎復元建物」の二つの施設があります。兵庫県の成り立ちや、県を構成する五国（摂津・播磨・但馬・丹波・淡路）の魅力を映像や復元されたもので紹介するミュージアムです。元々は池田恒興によって兵庫城が築かれた場所を利用し、旧大坂町奉行所の兵庫勤番所等を活用されたものです。



兵庫津(ひょうごのつ)ミュージアム正面

### 2. 初代県庁館

江戸時代の勤番所時代は奉行所の与力や同心が仕事をしていた。明治初期、県庁として初代知事伊藤博文や役人が執務を行った建物です。



復元された初代兵庫県庁正面・長屋門

ボランティアガイドさんの案内で奉行所の跡、県庁時代の施設を回りました。

・船見番小屋

勤番所時代に船を見張った下級役人の官舎。現在は入館者の休憩所として利用できます。



船見番小屋とその内部（休憩所として利用)されている

・取次役所

名主などが詰めて訴訟の取次や取り締まりを行った建物。

・同心屋敷

下級役人である同心の官舎

・県庁舎

知事や件の役人が執務を行った場所。初代知事伊藤博文が執務した知事執務室が復元されています。

表に日本庭園、裏側には吟味場(お白洲)も復元されています。





県庁舎内部



兵庫県の変遷(1次～3次)を示しています



知事の執務室



日本庭園



吟味場(お白州)



仮牢屋と番小屋 テレビドラマで見る牢屋に入ってその気分になりました



### 3. ひょうごはじまり館

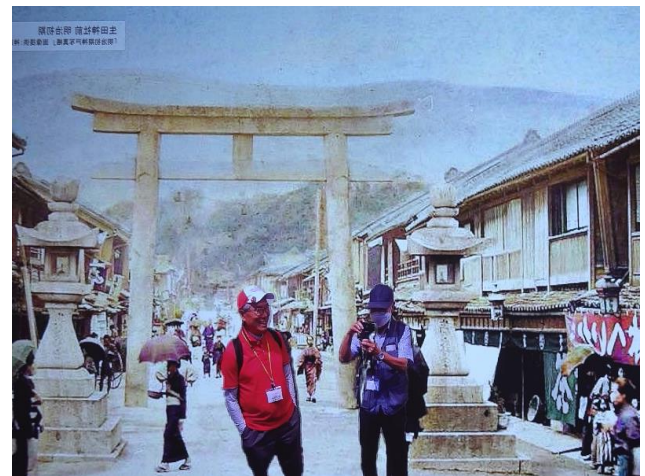
兵庫津の発展をもたらした有名人、平安期の平清盛、室町時代の足利義満、幕末期の高田屋嘉平、北風正造、明治時代の伊藤博文などの足跡や各時代の人々の暮らしぶりなどを映像などで紹介している。特に司馬遼太郎原作の「菜の花の沖」の舞台でもあり、立派な北前船の模型も展示され高田屋嘉平の勇壮な姿を彷彿させる。



ひょうごはじまり館内部の展示



北前船(模型)



明治初期の生田神社写真の前で

これらの見学後、冷房のきいた部屋(旧同心屋敷)で昼食をとる。

予定では、NHK 朝ドラ「らんまん」の主人公“牧野富太郎博士”ゆかりの地である“牧野富太郎植物研究所跡”を訪れる予定でしたが、梅雨明け前独特の不順な天候と会員の身体を考慮し、涼しい部屋で内海世話人の説明を受ける事としました。

牧野富太郎博士と関西地方の結びつきは、植物採集と本の出版の為、実家を破産させた上、膨大な借金をして収集した標本を海外に売却せざるを得ない状態になった富太郎を援助した神戸の資産家池長孟(はじめ)氏から始まりました。当時のお金で3万円(現在の価値では約3億円とも言われる)の借金を肩代わりする代わりに神戸に“牧野富太郎(池長)植物研究所”を作り毎月1回はここで採集した植物を整理し市民に公開する事を条件にしました。富太郎は毎月ここを訪れ、六甲山、金剛山、伊吹山などを歩き採集をしました。

ここで牧野富太郎博士の波乱に満ちた生涯を振り返りましょう。



## 牧野 富太郎博士

「日本の植物学の父」といわれ<sup>1</sup>、多数の新種を発見し、命名も行った近代植物分類学の権威である。その研究成果は 50 万点もの標本や観察記録、そして『牧野日本植物図鑑』に代表される多数の著作として残っている。旧制小学校中退でありながら理学博士の学位を取得した。誕生日である 4 月 24 日は「植物学の日」に制定された。

94 歳で亡くなる直前まで、日本全国をまわって膨大な数の植物標本を作製した。個人的に所蔵していた分だけでも 40 万枚に及び、命名植物は 1,500 種類を超える。野生植物だけでなく、野菜や果実なども含まれ、身近にある植物すべてが研究対象となっていたことが、「日本植物学の父」と言われる所以である。

### <富太郎の年譜>

文久 2(1862)年 4 月 24 日

土佐国高岡郡佐川村(現佐川町)酒造・雑貨屋を営む裕福な“岸屋”の一人息子として生まれる。幼い時に父母を亡くし祖母“浪子”に育てられる。

10~11 歳ころ塾で英語を始め西洋の 学問を受ける

明治 17(22 歳) 上京、東京大学理学部植物学教室への出入りを矢田部教授から認められる

明治 21(26 歳) 菓子屋の娘“壽衛”と東京根岸で所帯をもつ

明治 22(27 歳) 日本で初めて新種“ヤマトグサ”に学名をつけ発表する

明治 26(31 歳) 帝国大学理科大学、松村教授の助手となる

明治 33(38 歳) 「大日本植物志」第一巻第一集刊行

明治 45(50 歳) 東京帝国大学理科大学講師となる

大正 5(54 歳) 「植物研究雑誌」を自費創刊。池長孟氏の支援で神戸に「池長植物研究所」開設

昭和 2(65 歳) 理学博士の学位を受ける

昭和 3(66 歳) 壽衛夫人永眠、新種のささに“スエコザサ”を命名

昭和 15(78 歳) 「牧野日本植物図鑑」発行 大分県で採集中転落事故

昭和 23(86 歳) 生物学者でもある昭和天皇に植物学についてご進講

昭和 26(89 歳) 第一回文化功労者となる

昭和 31(94 歳) 重篤となる。昭和天皇からお見舞、(アイスクリーム)

昭和 32(94 歳) 1 月 18 日満 94 歳 永眠。没後従三位勲二等旭日重光章および文化勲章が授与される

昭和 33(1958) 高知県五台山に「県立牧野植物園」が開設される



## 色々なエピソード(?)について

### 1. 壽衛と猶(なお)という二人の女性について？

猶は富太郎と従妹同士。祖母と一緒に育てられ上京する前に結婚。

寿衛は上京後富太郎が一目ぼれで同居する。実家が破産した時に猶と離婚しその後正式に入籍。

### 2. 二人の東大植物学部教授から認められながら二度も首になったのは？

当初は富太郎の植物に対する知識、絵画力など認めざるを得ず利用するも、ライバルになると共に富太郎の自分本位のやり方に怒る。

### 3. 援助してくれた池長孟(はじめ)氏とその後？

富太郎が標本の整理や市民への公開などの約束を守らない事への不満から池長は標本を全て京大へ寄贈すると言い出し対立。その後すべて富太郎に返却する。

### 4. 昭和天皇へのご進講、「雑草という名の草はない」

1965年(昭和40年)から昭和天皇の侍従を務めていた田中直(たなか・なおる)が天皇の地方行幸の間に吹上御所で「雑草」を刈ったことを伝えたところ、「雑草という草はない」とたしなめられた。



スエコザサ



富太郎と壽衛



牧野富太郎について説明をする内海代表



復元された初代兵庫県庁長屋門前にて